

総括研究報告書

1. 研究開発課題名：精神疾患患者早期介入のための医療従事者向け研修プログラム開発ーメンタルヘルス・ファーストエイドの応用ー

2. 研究開発代表者： 加藤 隆弘（九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点）

3. 研究開発の成果

うつ病など精神疾患をもつ患者が、最初から精神科・心療内科を受診することは稀で、多くは身体症状などを訴えて身体科を受診するため、適切な精神医学的対応は遅れがちで、慢性化や症状増悪、あるいは、自殺念慮等への対応の遅れが懸念される。しかるに、精神医療を専門としない医療従事者（研修医・医師・看護師など）が精神疾患患者への早期対応法を習得することは、精神疾患患者の早期対応・早期治療に直結するため、厚生労働行政上急務である。オーストラリアでは、精神保健知識や精神疾患をもつ患者への初期対処法を習得するために、精神障害者に対応する可能性の高い人々（消防、救急隊、聖職者など）や一般市民を対象に、うつ・自殺念慮など地域生活において直面する可能性のある精神状態像にどのように初期対応し、その後円滑に専門家の支援につなげるかを実践的に習得できる教育プログラム（メンタルヘルス・ファーストエイド：MHFA）が開発され、数万人規模で普及し、その効果が量的研究、質的研究の両面で実証されている。

本研究の目的は、オーストラリアで開発された MHFA を基盤として、我が国の医師・研修医・看護師など医療従事者向けに特化した「精神疾患患者に対する早期介入のための教育研修プログラム」を開発し、大学病院・総合病院を中心とした医療機関において多施設共同研究として教育研修プログラムの効果判定のための前向き研究を実施することである。

平成 27 年度前半にかけて、MHFA に基づき、我が国の医療現場・医療従事者の実情に則した教育研修プログラムを開発してきた。プログラムは、精神疾患に関する知識向上や患者への偏見が軽減するような内容の講義と、シナリオロールプレイなど実際的な対応スキルを習得するためのコンテンツを組み合わせ、講義全体の時間は忙しい医療従事者の実情に合わせて 2 時間とし、MHFA に基づく適切な対応・不適切な対応を直感的に把握できるように役者によるロールプレイを撮影した DVD 教材を作成した。さらに、複数の施設でパイロット的にプログラムを実施し、参加者である医師、研修医、看護師、保健師といった医療従事者にプログラムへの意見を求めるとともに、現場のニーズを聴取することで、職種ごとの実情に則した教育プログラム開発に成功した。

平成 27 年度後半から、シングルアーム試験としてプログラムの効果検証を九州大学病院等で開始し、プログラム参加者である医師・研修医、看護師に対して、実施前・実施直後・実施 1 ヶ月後において効果判定のための調査を行っている段階である。平成 28 年度は、大学病院、総合病院、および、精神保健福祉センターにて開発した教育研修プログラムを実施し、参加者を増やし、多施設での効果を検証する予定である。